



「落ち穂拾い記」 『天発神讖碑』 73

図① 天発神讖碑の全体



図② 「嘉徳」出品拓本



図③ 姚華（茫父）題簽



北京の「嘉徳」というオークション会社は、優れた美術品や古書なども販売し、この種の会社の中心的な存在である。1997年の春、「嘉徳」の春の売り立てに『天発神讖碑』（また『天璽紀功頌』、『三段碑』とも）が出品された。漢時代のおとの三国時代の名碑であり、その書は、「怪偉」と評されるほどの特異な刻石である。三国・呉の時代の天璽元年(267)の建立。碑石は円幢形で宋時代に三段に断裂され、さらに嘉慶18年(1813)に焼け壊れたと伝えられている(図①)。書道史上から見てもその書風は、大変に異彩を放っている。文字も大きく、縦横ともにほぼ10cmほどで、本誌の表紙に示した「書」字が、ほぼ原寸である。その書を「怪偉」と評したが、書体は篆書であるが、起筆などは、篆書や隸書に用いられる包筆でなく、筆先を外に出した露鋒で楷書に近い。篆書、隸書、楷書の要素が混在した珍しい書体である。また文字の大きさと相まって、実に堂々とした趣を示している。更にこの碑石は、古くに失われ原石拓本は、非常に少ない。現在日本でこの原石拓本を所蔵しているのは、公私の博物館等10件に満たないであろう。流布しているのは、翻刻(原石でない)拓本である。この時の「嘉徳」で売り出されたのは、横披で一部が焼け焦げた状態の、三段からなる初めの第一段部分のみであった(図②)。拓調は、淡い拓調の精拓であり、巻頭に「呉天璽紀功碑 茫父」の題簽が付されていた(図③)。三段の揃いではなく、焼け焦げた跡の残る状態であり、応札する人がほとんどなく、最低価格で入手できた。その後、焼け焦げた拓本を、自ら注意深く重装して整拓本のままに所蔵している。完全な整拓本の名家旧蔵拓本が、大阪市立美術館や京都の藤井有鄰館に所蔵されている。大阪市立美術館所蔵本は、二十代から三十代にかけて、金石拓本に関して指導を受けた師古斎・岡村商石翁氏の旧蔵品である。商石翁は、戦前にこの拓本を手するに、数軒の貸家を手放されたと話されていた。最近のオークションでは、名家旧蔵の拓本が、百万元以上の高い値段で売買されている。

※注・姚華(1876~1930)、茫父と号す。近代の蔵書家で、書画篆刻にすぐれる。伊藤滋(書斎名・木鷄室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

明けましておめでとうございます

令和8年午の年となりました。

本年が、皆様にとりまして災いのない平和な幸多い日々でありますことをお祈りいたします。

一年よろしくお願い申し上げます。

第79回書道芸術院展

一般公募・無鑑査作品搬入・鑑別審査終了

昨年、11月20日に搬入された第79回書道芸術院展一般公募・無鑑査の作品は、12月6日、浅草橋の文具共和会館で鑑別・審査が行われました。

前日、事務所にて、出品点数の多い漢字・現代詩文書部の、一般公募・無鑑査の審査主任と副主任、および審査部の正副部長によって今回展の審査方針等の打ち合わせを行いました。

今回展は、久しぶりに一般公募が若干増加しましたが、無鑑査は例年同様少々減少しました。昨年から全部門の鑑別・審査は一日で終了できるようになり、漢字部のみ、7日午前中、残務整理にあたりました。

既に結果は発表され、一般公募の入選者と、無鑑査の出品者全員の作品は

表装の上、1月27日に東京都美術館に搬入されます。



審査会・朝のあいさつ

今回から無鑑査までの作品は、軸装・額装を出品者が選択できるようになりました(タテ作品のみ)。どのような展示になるか楽しみです。表彰式・出品者の集い・作品解説等は、要項を確認して下さい。

作品解説会は、公募から審査会員まで、分けて行われます。それぞれ審査に当たった先生方の今年の部門の傾向や、問題点など直接伺うことができますから、是非ご参加下さい。

本院評議員・理事作品互評会開催

12月10・11日に評議員・理事の79回展に向けた作品の互評会を行いました。他部門への理解と、お互いの作品向上を求めて始めた互評会も、理事は5回目、評議員は4回目となりました。当初は遠慮もあり控え目であった参加者

も少しずつ発言も多くなってきました。本院役員としての責任と覚悟をもった作品創りに役立ててほしい互評会です。



互評会(評議員)の風景

「鳥取県立美術館開館記念 全国代表書作家展」開催



鳥取県立美術館会場風景

12月13〜28日、倉吉市の鳥取県立美術館企画展示室で、開館記念の全国代表作家展が開かれました。現代を代表する書家82人、文化勲章受章者と文化

功労者15人、毎日芸術賞・日本芸術院賞受賞者15人に、鳥取県内の8人の計120人の作品が展示されました。13日には開幕式と祝賀会が行われ、本院からは出品者の辻元大雲・小竹石雲先生と私に、今回の企画で事務局を担った名越蒼竹先生が参加しました。書展終了後は作品が鳥取県に寄贈されます。

令和7年度高野山書道協会理事会開催

12月7日、高野山東京別院にて理事会が開催され、令和8年度の第60回高野山競書大会の概要が決まりました。

60回展審査委員長 下谷洋子

運営副委員長 種谷萬城

運営委員 千葉蒼玄

当番審査員 下谷洋子・種谷萬城・小林琴水(本院関係)

・出品締切 5月11日

・2次審査 5月28〜29日 (高野山)

・最終審査 5月30日 (東京別院)

・惣覧書法展 7月30日 (高野山奥の院)

・表彰式 7月31日 (高野山)

・展示会 7月31〜8月16日 (金剛峰寺)

・関東展示会 8月28〜30日 (高野山東京別院)

本年は第60回記念となりますので、特別賞として第60回記念大会賞が設けられます。

まだ参加されていないご社中は、是非ご出品をお願いします。



新年おめでとーいございます

令和8年午の年(丙午)があげました。

昨年の国内は大阪万博に酷暑、女性初の総理大臣の誕生などが耳目を集めました。が、世界はというとあちこちでの混乱は収束を見ず、平和とは程遠いニュースが毎日のように駆け巡ります。

書道界は、「書道」の来年の正式なユネスコ無形文化遺産登録に向けての活動が順調に進む一方、各団体では世代交代が始まり戦後80年を実感させられています。

本院も2月の79回展を控え、来年は80回展という大きな節目を迎えますが、10年前の70回展時とは世相も変わり、会員の意識もだいぶ変わってきました。しかし、AIが進み手書き文字が少なくなる今こそ、書を持つ力が意味を成す時ではないでしょうか。書は、どんなに技術が進んでも人の心を映し出すものだと思います。書と向き合う日々の中で、何かを得、その真摯な姿勢が自らを成長させていくでしょう。

馬は力強さ、前進、開運の象徴とされ、午年は前向きに進む力を表す年とされています。書をとりまく環境は万全でなくてもチャレンジを恐れず、明るく臨みましょう。

役員一同も、心して精進してまいります。皆様方のご健康を祈り、一層のご協力ご支援をお願いし、年頭の挨拶いたします。

令和8年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

下谷 洋子
役員一同

漢字書基礎基本講座 (20)

種谷萬城

隷書5 居延漢簡

紙以前の書写材料は木札や竹札で、簡牘^{かんめき}という。19世紀末から20世紀にかけて、ヨーロッパ諸国が中央アジアで発掘調査を行い、その発掘品の中に、貴重な肉筆資料である簡牘が多数あった。1930年にスウェーデンと中国の合同探検隊が、現在の甘肅省北部エチナ河流域に点在する漢代の烽燧遺址から、1万件以上のほろ漢代の簡牘を発見した。これは居延漢簡と名付けられ、現在は台北の中央研究院歷史語言研究所に収蔵される。エチナ河流域は1973年から中国の学者による再調査で、漢代の簡牘約2万件が発見された。これを居延新簡と名付け、甘肅省文物考古研究所に所蔵される。また、1970年以後は、西域の烽燧遺址、長江流域等中国各地の戦国墓、秦漢墓や湖南長沙の古井戸等から大量の簡牘が発見された。これらの簡牘の内容は多種多様で、その文献としての価値は言うまでもない。書道史的には、戦国時代から三国時代にわたる大量の肉筆文字で、当時の日常書写の実態、書体の変遷、書法の技巧や美意識が直に窺える資料である。

簡牘

居延漢簡には、八分、草隸、章草の各種の書体が見られる。筆鋒の開閉が自在で、太細の変化があり、線の表情が豊かで美しい。殊に伸びやかに強調された波磔^{はたけ}には、奔放自在な筆遣いがみられ、百花繚乱^{ひゃくかりょうれん}、個性豊かな魅力に溢れている。

居延漢簡

「地節四年三月卒兵舉」

※YouTube「筆のサロン」に臨書と做書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。

QRコードでアクセスできます。
筆のサロン
QRコード



居延漢簡「年」之「之」字形

臨書「地節四年三月卒兵舉」

做書「百華繚乱」



基礎基本講座

篆刻・刻字基礎基本講座 (20)

後藤大峰

今回は刻字作品を制作する際の、板について改めてお話をしたいと思います。

一番刻字に適しているのは桂材です。次に多いのが銀杏、桜などです。こまでは前回このテーマの際、お話を致しました。

最近、出てきているのが外国材の板、これは主に、熱帯地方で産出されており、

ただ少し板自体に色が付いており、彩色の際に塗料等と色が混じり合い、余りきれいな着色できないのが難点です。

次に出てきているのが石膏ボードです。文字通り石膏を主材料にして型に入れ、固めてつくりまします。

この石膏ボードの良いところは、任意の大きさに作れることです。

ただ、余り大きいと、自重に耐えられず破損しかねません。ここがこの石膏ボードの一番の欠点です。

ここまで新たな材料をお話し致しました。一番材料として適しているのは桂材であることは前にお話をした通りです。

ただ、最近これが中々求められなくなりつつあります。

以前は産地から原木としてある程度のものが手に入りましたが、今それが、大変難しい状況にあります。

板材として需要が少ないのが大きな原因ですが、何とか打開していかねばならないところであります。

ここまで刻字材のことを色々お話し致しました。

どの部門の作家も創作活動に使う材料は自身で準備します。書家は大体の用具は書道用品店で求めますが、刻字作家は、紙に「書稿」を書いた後、板を用意、刃物で刻さなければなりません。その板を、書道用品店ではない「材木屋」で求めなくてはなりません。

好みの大きさ等を自身で求めなくてはならないのです。この辺りが一番の問題かもしれません。

今回は刻字材の求め方の大変さをお話し致しました。

書道芸術院 令和の群像 (2026)



西川 藤象 (千葉)

「振り返ると…」

土曜日は、お稽古の日です。お昼を知らせるチャイムを聞きながら、駅のホームで電車を待ちます。千葉県南東部に位置する勝浦から半田藤扇先生のお教室がある船橋まで電車で2時間、お稽古に通っています。もう20年以上経ちますが、今でも新鮮な気持ちで、お稽古の日を待ち遠しく思っています。

2000年に「何か趣味を持とう。」と思い、始めたのが「書道」でした。昨年で25年目。振り返ると、とても充実した時間を過ごせたと思います。

26年前、家が近所だった林洛鈴先生と出

会いました。穏やかでいつもニコニコしている林先生。お稽古に行くのが楽しみでした。

数年後のある日、林先生が「書道を続けるなら、半田先生のところで学んでみたら。今が良い時期。」と私の背中を押してくれました。

林先生と一緒に半田先生の船橋教室に伺い、半田先生が書かれている姿を目の当たりにした時の感動を、今でもはっきりと覚えています。この日から、半田先生に師事することになりました。

当時二十代後半だった私は、半田先生のご指導のもと、先輩方に追い付こうと必死でした。

三十代は、半田先生の漢字横作品に憧れ、書道芸術院展や毎日書道展には、意欲的に

横作品を出品しました。この頃は横作品に夢中で、夜中まで作品を書いていました。ここ数年、作品制作の仕方も少しずつ変化してきたように感じています。掲載した作品は、第77回書道芸術院展に出品し、「評論家の眼」に選んで頂きました。太田文字先生より「紙面が明るく眼に映える。文字と文字、行と行との響き合いがピタリと決まっているゆえであろう。洗練度の高い作」とお言葉を頂戴し、今でも作品制作の励みになっています。草稿作り時間に時間をかけ、羊毛で縦の流れを意識して取り組んだ作品でした。忘れられない作品になりました。

原稿依頼を頂き、今まで歩んできた「書の道」を振り返ることができました。貴重な機会を与えて頂き感謝しています。

船橋までお稽古に通う話をした時、「自分ができることを、好きなようにやりなさい。」と応援してくれた家族。受賞の喜びも一緒に分かち合ってくれました。今日まで書道を続けられたのは、家族の理解と支えのおかげと感謝しています。

そして、尊敬する師、良き書友に出会い、一緒に「書の道」を歩んでいることに幸せを感じています。

これからも、感謝の気持ちを忘れず、焦らず、急がず、地につかり足をつけて、「書の道」を歩み続けたいと思います。



第77回書道芸術院展「夜泊淮陰」

西川 藤象 書

新 鋭 礼 讃

前衛部 審査会員

大和愛香（宮城県）



所属 宮城野書人会 参加している書展
大拙社 毎日書道展
師名 嵯峨翔葉 河北書道展



「無題」

作品自評

作品を創作する上で常に念頭にあるのは、線質と余白美です。限られた紙面の中でいかに無駄のない、一貫性のある作品に仕上げるか。白と黒がせめぎ合い、そして呼応し余白が美しく存在する、呼吸のある作品を書きたいと願っています。古典臨書により学んだ用筆を生かし、新しい作品を創作していきたいと思っていますが、試行錯誤のくり返します。

書活動における課題

古典の臨書に学ぶ、書線の鍛錬と用筆法を礎とし、今後「書」に対しどれだけ時間を費していけるか、また多くの経験を積み、自分のものにしていけるかが課題です。

題です。今は、多くのものを身につけ、吸収し、いつか余分なものを除いた私自身の芯となる作品が書けるよう鍛錬していきたいと思っています。

今、伝えたいこと

何事にも「継続すること」が大切なことだと思います。忙しい日々の生活の中では時間の捻出が大変な時も多々ありますが、今日まで書が続けることができ、支えてくださる先生、書友、家族には感謝しています。まだまだ道半ばであり、学ぶべきことが多く長い道のりですが、小さな積み重ねを大切に、精進していきたいと思っています。

現代詩文書部 審査会員

柳川蝶月（高知県）



所属 白扇会 参加している書展
岡山支部 毎日書道展
師名 小竹石雲



「水中花」

作品自評

伊東静雄の詩『水中花』の一節「万象のこれは自ら光る明るさの時刻」。その言葉に心ひかれ、筆を取りました。この詩には、世界のすべてが、自ら輝き出す尊い時が表されていると思います。制作では、余白の美しさと線の重厚さを大切にしました。

余白は「光」や「明るさ」を感じさせる空間として意識し、線には言葉の持つ奥行きや力強さを込めようと心がけました。書き終えて、言葉もまた自ら光るものだ、あらためて感じています。これからも、一つひとつの書と丁寧に向き合いながら、自分らしい表現を探し続けたいです。

書活動における課題

「華がある作品を書くように」という

師の言葉を胸に、書と向き合っています。一画一画のリズムや、漢字とひらがなが織りなす音の響きを大切にしながら、余白や線の美しさに気を配り、心に残る書を目指しています。

今、伝えたいこと

これまで支えてくださった師や仲間、家族への感謝の気持ちをいつも心にとめています。あたたかく見守ってくれる人たちがいるからこそ、私はこれまで書と向き合い、歩んでくることができました。書は、言葉だけでなく、その人の心や想いまで映し出すものだと感じています。これからも、感謝の気持ちを忘れず、一つひとつの書に心を込め、大切に書き続けていきたいです。

万象のこれは自ら光る明るさの時刻

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

令和7年11月23日(日・祝)
於 上野精養軒

「現代書の鑑賞をめぐる」

講師 東京都文化事業課文化戦略推進担当 田村麗恵先生

〈公開講演会〉

千葉蒼玄

m縦3.6mの大作となり、現在アメリカ、カリフォルニアカウンティ美術館に収蔵されている。

講演会では、ご自身の豊かな経験をもとに現代書の魅力を語ってくださいました。センチュリーミュージアムでの勤務を経て2011年から東京都美術館学芸員となり、「TOKYO書―公募団体の今」やコレクション展などを長く担当してきた田村さんは、作品をただ展示するだけではなく、書に込められた想いや背景を丁寧に伝えようとしてきたと話す。

「TOKYO書―公募団体の今」では、私の作品「鎮魂と復活」も展示され、震災の痛みを抱えながらも希望をつなぐ線が深く響き、文字を超えた表現の力を汲み取っていただいたように思う。その後「見る、知る、感じる現代の書」に再度出品した作品は、横12

田村さんの言葉はとても温かく、会場をやさしい空気で包んでいた。古典の賢愚経残巻や升色紙に見られる整った線や余白の呼吸は、書く行為が祈りや心の静まりと結びついていったことを教えてくれる。広重の錦絵は、線が風景をつくる力を持ち、近代の造形的な感覚へとつながっていくという指摘も心に残った。豊道春海の大字揮毫は、筆勢や息づかいをそのまま感じさせ、書が身体表現でもあることを示していた。寺田曜子の「パンゲア」では、線が大地の動きのように広がり、作品の中を歩くような感覚に包まれる。

書を「読む」から「感じる」へと視点を変える大切さを、田村さんの言葉から学ぶことができた講演会であった。



蘇慈墓誌銘（隋 603年）①

〔解説〕墓誌の祖制は1世紀ころまでさかのぼれるが、その定式化は5世紀前半にまで降る。魏の曹操の「禁碑令（205年）」、西晋の武帝の「石獸碑表の禁（276年）」の影響で碑そのものが作られなくなったからである。しかし、やがて法の目をかいくぐり、土中に埋める形で碑の制作が再開されるようになった。北魏になると、多数の墓誌が作られていくことに

漢字研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ（A：大作の部、毎日展覧会・倉庫サイズ以内、2×6尺、金紙も可）
（B：小品の部、半切以下、金紙以外も可）（A・B縦横自由）
当該古典の左記掲載部分以外も可。

なるが、特に北魏宗室の墓誌に楷書の優品が多く見られる。

「蘇慈墓誌銘」は隋代を代表する墓誌銘のひとつである。清の光緒13年（1887）に出土、整齊な美しさが賞賛された。字形は謹厳で北朝系の書法を受けてはいるが、起筆や転折はそれほど厳しくはない。洗練された格調の高い楷書である。

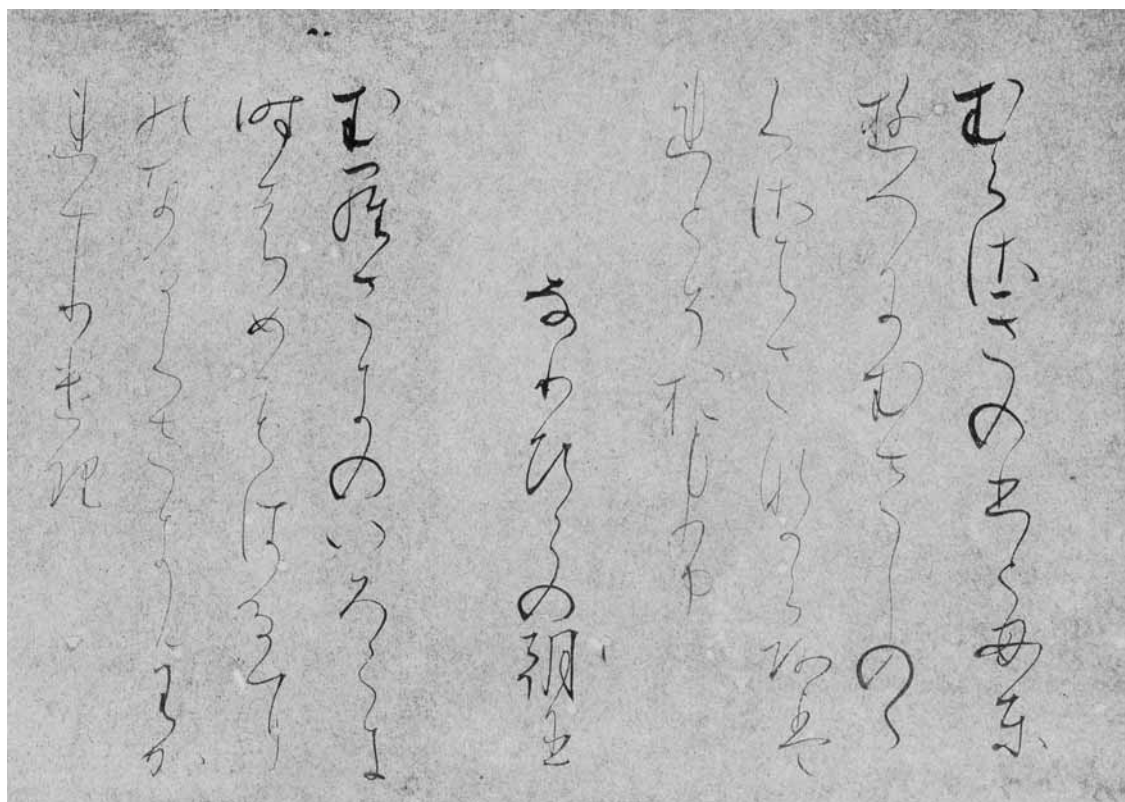
（編集部）



※掲載図版原寸

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

大隋使持節大將軍工／兵二部尚書司農太府／卿太子左右衛率右庶／子洪吉江虔饒袁撫七／州諸軍事洪州總管安



曼殊院蔵

※掲載図版75%縮小

古筆鑑賞

262

かな研究部臨書課題

(半紙普通判・料紙可)・縦長に使用) 別紙を裁断して貼付可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く(全臨可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部 毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙可
B. 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外可。▽

曼殊院本古今集(伝藤原行成筆) ①

〈解説〉「曼殊院本」は京都の古寺・曼殊院に伝来した『古今集』巻17の残巻。藍から浅黄色まで7枚の漉き染めの紙を継いだ、タテおよそ14cm・ヨコ286cmの卷子本である。冒頭に「雑 七十首」とあり、もとの形から何回かに分けて39首分が切り取られて、31首が残ったことになる。

本来あるべき詞書が省略されていることから、写本としては不完全で、制作の目的は贈答のための、いわゆる「調度手本」ということが分かる。この古筆の見どころは、繊細にして鋭利な、その線質にある。清く澄み切った線が、抑制を保ちながらも自在に展開してゆく。派手なところは無いが、自然体の美と気品を感じさせる11世紀後半の名筆である。伝承筆者は藤原行成(1071年に没)とされるが、もちろん別筆である。(編集部)

〈よみ〉

むらさきのひともと
ゆへにむさしの
くさはさながらあは
れとぞおもふ
なりひらの朝臣
むらさきのいろこ
時はめもはるに
のなるくさきもわ
れざりけり

※落款を必ず入れる。署名、もしくは
○○臨(押印のみ可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書し
ましょう。

※57ページに原寸大の図版を掲載
しました。

漢字規定 初段以上 【2月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

千葉蒼玄選書

習い方解説 (1)

千葉蒼玄

和氣致祥

(和氣致祥)

(漢書)

稲やかで和やかな雰囲気、幸運や吉兆をもたらす。

新年を迎えるにあたり、めでたい句を選んだ。四字熟語は短い中に深い意味を込められるため、多くの人に親しまれやすい。

この句もまた、人々の間に調和と平和が保たれることで幸福もたらされるといふ、儒教的な価値観や道徳的な思想を表現している。書に取り組む際は、急いで書くのではなく、筆をゆっくりと沈め、穏やかで柔らかな表現を心がけるのがよいと思う。丁寧な筆遣いから生まれる文字には、書き手の心情や思いが反映される。

書は言葉の形だけでなく、その背後にある想いや願いも伝える芸術である。

和氣致祥

よみ (和氣致祥)

書体 自由



漢字規定 秀級以下 【2月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

大平 邑峰 選書

習い方解説 (4)

大平 邑峰

千軍萬馬

(千軍万馬)

(四字熟語)

戦闘の経験を多く積んでいる人物のことで、人生経験が豊富な人物のたとえ。

「千」と「萬」は数字ではなく数が多いことを示す。

「軍」は兵士、「馬」は軍用の馬のこと。

今月から3回は古典を強く意識して書いてみることにしました。「〴〵風を書く」。言うは易し、行うは難しです。全く様になりません。法帖を開き、よく観る、臨書する。そして課題語句を書いてみました。それでもなぜかしっくりきません(観念的になりすぎか...)。悪戦苦闘しながら、3ヶ月分の課題を同じ羊毛(中鋒)の筆で書き分けてみました。

今月は、魏の鐘繇(しょうぎょう)の書を参考にしました。古典に基づいて書く場合、書道史をよく確認して、その位置づけを把握して臨むことがお薦めです。できればその前後の古典も確かめておきたいものです。手間がかかりますが...

千軍萬馬

よみ

(せんぐんばば)

邑峰書

書体Ⅱ楷書

かな規定 初段以上 【2月15日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

松村くに子選書

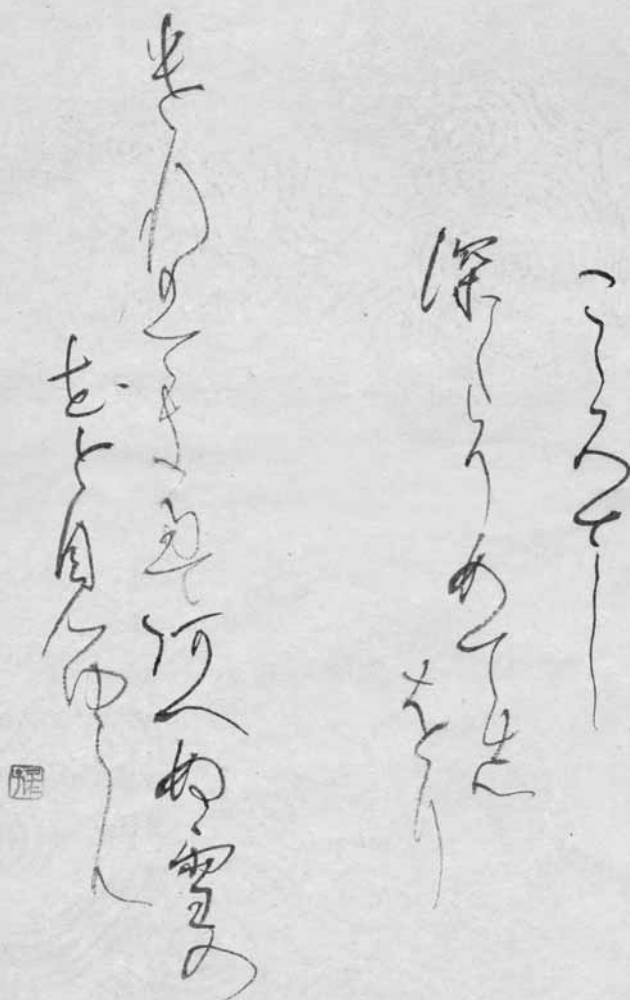
習い方解説 (1)

松村 くに子

こころざし深くそめてしをりければ
消えあへぬ雪の花と見ゆらむ

（読人知らず「古今集」）

花の咲くのを心待ちにしていたものだから、今ごろは枝に消え残った雪が梅の花に見えていることでしょうよ。



よみ方 ここ（こ）ろざし深く（久）そ（曾）めてし（志）をりけ（遣）れば（盤）

消（支）え（盈）あ（阿）へぬ雪の花と見ゆらむ（无）

創作

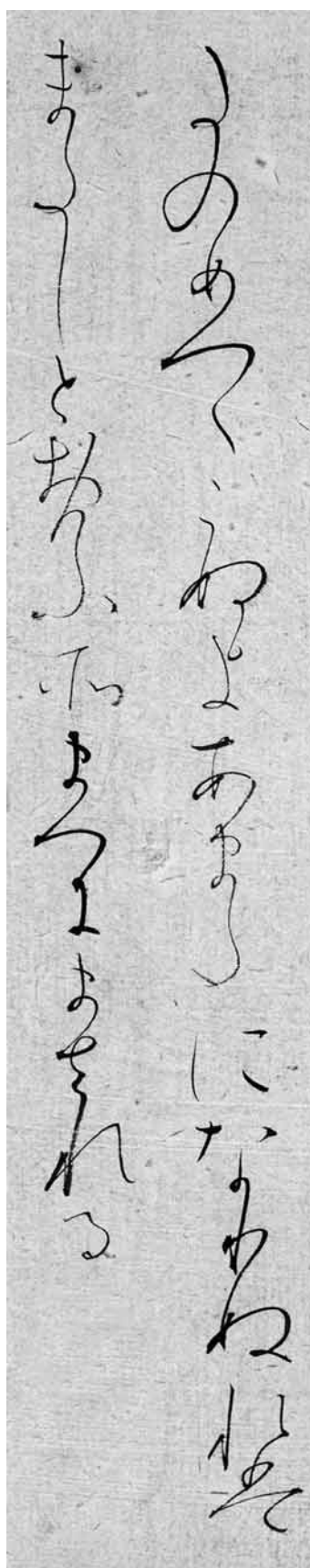
*料紙は半紙版（33.0×24.5cm）を使用しましょう。半懷紙は上記のサイズに切って下さい。

今回、漢字を4字入れましたが、かな文字と漢字とのバランスは、なかなか難しいですね。漢字を使う場合は孤立させないようにしたいです。それにはまわりの文字との兼ね合いが重要です。いろいろな書体を考え作品の流れの中に組み入れます。草書体などは、変体がなとして読まれしてしまうことがありますので注意が必要です。漢字の方が意味を明快地解釈できたり、効果的に表現することとで作品の表情を豊かにできたりするかとも思います。

参考手本の最終行ですが、作者の心情を鑑みて一気に筆を走らせてみました。

墨継ぎは「阿」です。

かな規定 秀級以下 【2月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

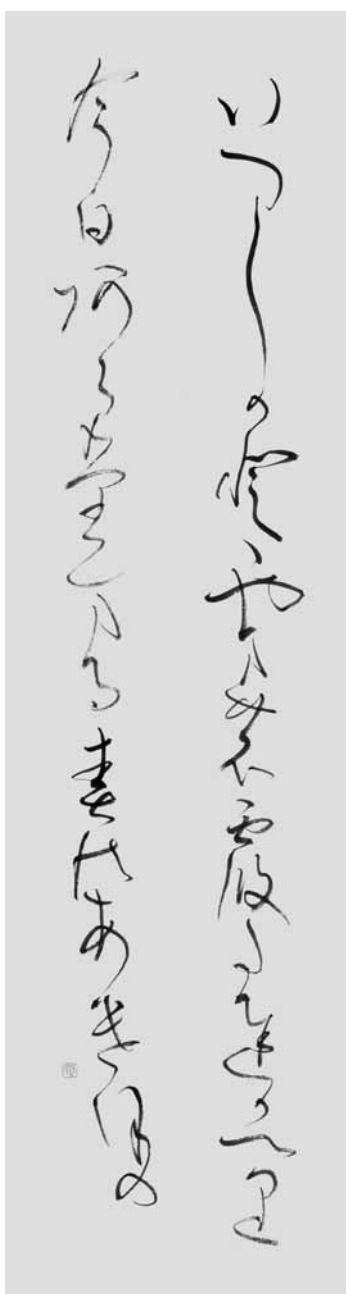


よみ方 たのめつゝこぬよあまたになりぬれば
またじとおもふぞまつにまされる

歌意 約束していながらすっぱかされる夜が続いたので、あなたなんかもう待つまいと思います。でも、私の気持ちは楽になるところか、待たされる苦しさ以上に切なさかつらさが大きくなってしまいましたよ。

かな条幅規定 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

勝山初美選書



よみ方 いっしか(可)と(登)と(こ)やま(万)の(農)霞た(多)ち(遅)か(可)へ(部)り(里)
けふ(今日)あ(阿)らた(堂)ま(万)る春の(能)あけ(遣)ば(保)の

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

勝山初美

いっしかとやまの霞たちかへり
けふあらたまる春のあけぼの

(藤原定家「新拾遺集」)

「いつの間にか人里近い山の霞ももどって来て、今日からは季節の改まる新春の朝である」の意。構成は基本形の2行書きです。1行目の潤筆と2行目の渴筆のコントラストが変化と立体感を生みます。自然の流れと疎密を意識し作品創りをしてみましょう。墨継ぎは「春」です。

漢字条幅規定 初段以上 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

稲垣小燕選書

鶯逢春暖歌聲滑
人遇時平笑臉開
小燕書

鶯逢春暖歌聲滑 人遇時平笑臉開 (槐安國語上)

(鶯は春暖に逢うて歌声滑かに、人は時平に遇うて笑臉開く)

書体Ⅱ自由

漢字条幅規定 秀級以下 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

田村鄭雲選書

春日逐鳥聲開
鄭雲書

春逐鳥聲開 (唐太宗)

(春は鳥を逐って開く)

書体Ⅱ自由

習い方解説 (1)

稲垣小燕

「寒かった夜も終わりを告げ、春の日ざしが暖かくなるに従って、鶯のさえずる声も次第によくなくなってきました。また戦火も止み、平和がよみがえってきて、人々は皆にこにこと喜んでいます。」という誠に穏やかな情景を詠じたものです。昨今の世界情勢を鑑みて、この詩が現実になる時が一日も早く訪れることを祈ります。

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

田村鄭雲

今月は1行を行書で言葉の意味に合う表現にしてみました。楷書で書くのと読み易いですが、変化が付けにくく、動きの無い表現になりがちです。もともと楷書は文書や頌徳碑等の整然と並べるのに適する書体であり、感情や情景を表現するには行書や草書が適します。鳥の声を聞き春を感じるような作品になるといいですね。

雪の結晶の別名は、六花・風花・
銀花・玉塵などがあつます。
「天から送られた手紙である」と
言ったのは、物理学者の中谷
宇吉郎です。 舟錦書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10 cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体＝自由

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10 cm)を守って下さい。

習い方解説 (1)

川島舟錦

六花亭の包装紙は、日高山脈と原野を愛した農民画家の坂本直行さんがデザインしたものです。23種類の草花が描かれています。

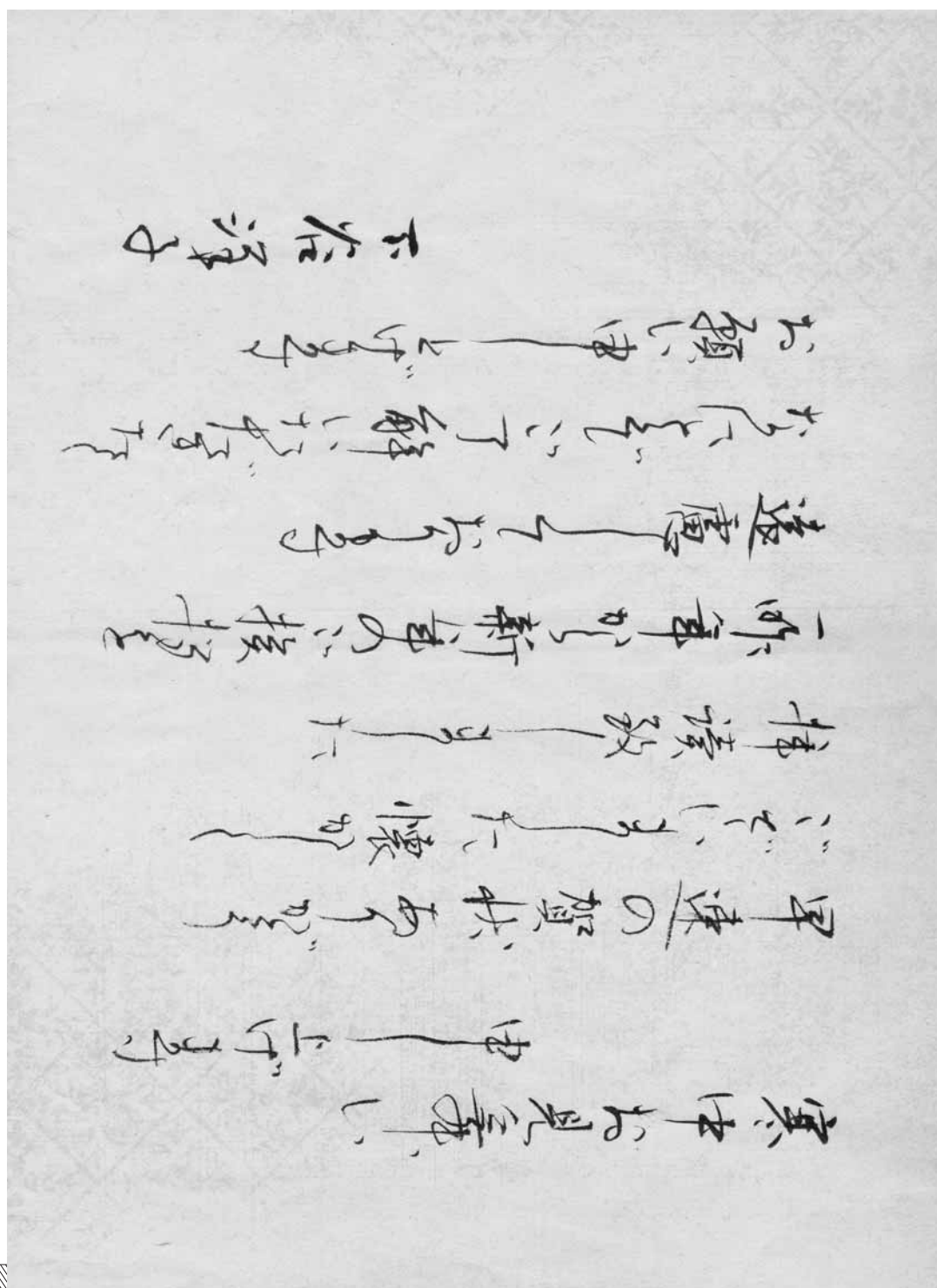
坂本龍馬の本名は直柔(なおなり)、直行は、「直」を受け継ぐ人です。生涯にわたって描き続けた100枚以上の絵の中から、高知県立坂本龍馬記念館には数枚が収蔵されているようです。

いろいろなところに思いを馳せながら練習してください。漢字は大きめに、平がなは、やや小さめに。リズムにのるまで書き続けると楽しくなるはずです。

ペンは、やや弾力があるので書きやすいはずです。欠点は、乾きにくいということです。つい、擦ってしまうことがあります。

雪の結晶の別名は、六花・風花・銀花・玉塵などがあります。

「天から送られた手紙である」と言ったのは、物理学者の中谷宇吉郎です。 ○○書



書体=自由

(掲載手本85%に縮小。原寸にするには117%拡大してください)

寒中お見舞い／申し上げます／早速の賀状ありがとうございます／ございました懐かし／拝読致しました／
一昨年から新年のご挨拶を／遠慮しております／なにとぞご理解いただきたく／お願い申し上げます／氏名

※出品券貼付位置↓

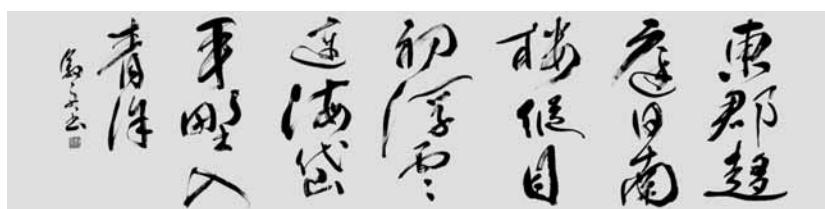
- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る



かな条幅部 師範 名取 美袖
手本をよく解釈し、穏やかなリズムで爽やかにまとめた。渴筆の墨の変化も美しく自然で温雅な趣き。

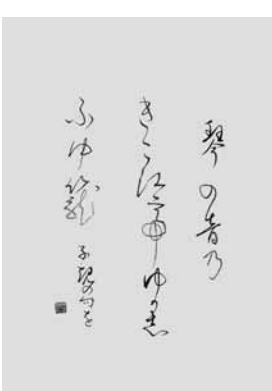
◎かな条幅部総評 文字が小さいか大き過ぎたか、調和に欠けた作品が多かった。渴筆も筋ではなく筆毛の弾力生かしたい。(洋子評)

かな部 師範 本間みち子
強弱のリズムが美しいハーモニーになった上品な作。線条強く特に渴筆部が効いている。
◎かな部総評 濃淡の変化に気を配り伸びやかな線条に好感を持った。子規の規が起に見える作が多く注意して欲しい。(峰子評)



漢字条幅部 師範 竹浪 叙舟
軽やかな運筆で、線が柔和で美しい。字間、行間の余白も配慮され美しい。品性の高さを感じる。

◎漢字条幅部総評 上級は優れた行草作品が多く見られたが、篆隸作品にも個性的な優品があった。草書の誤字に注意。(萬城評)



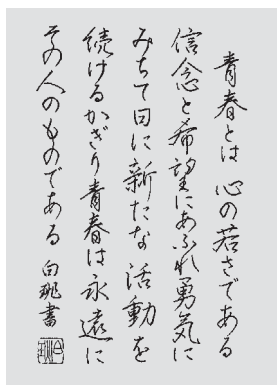
現代詩文書部 特選 齋田 舞夢
構成と熟練した線の運動が美しい白を生んだ。字間の変化と弾力、字形が見事に調和した快作。
◎現代詩文書部総評 詩の内容に適した表現をしている作品が多く感心。(鄭雲評)



漢字部 師範 坂部 春晶
動きに余裕と安定感がある。自然で一貫性のある運筆に、ある種の貫禄を感じる。正々堂々の作。
◎漢字部総評 行草の学習では画の虚・実を正確にマスターしてほしい。調子書きになって誤字に近いものが散見された。(石雲評)



前衛書部 特選 早坂 聖朋
切れ味鋭い筆致、曲線、直線の構成が心地よく魅力溢れる力作。
◎前衛書部総評 運筆にリズム、墨色に工夫、楽しく躍動感を表現する作品作り。(仙岳評)



ペン字部 師範 藍澤 白珠
豊かな弾力のある筆線が魅力。美しい行書体によって流麗さとともに立体感を表現した格調高い作品。
◎ペン字部総評 漢字とかなのバランスがよく、全体的に調和がとれた作品が多かった。天地左右行間の余白に留意。(孝子評)

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



千晶 陽子 雅悠 美雪 和香
修子 美代 葵龍 青仙 紫千
筆先の広がり美しい作品
線質に強弱あり心に響く
構成に工夫、余白も生きる
軽妙な造形墨色鮮やか
伸びやかで充実した作
自然な運筆で心地よい作
骨力ある筆致安定感あり
墨色巧妙に融合し明快作
墨の凝縮、空間処理良作
幻想的墨色と滲みが一体化

選評 大石 仙岳

秋子 睦雨 紅香 純夫
長鋒の穂先を生かした字
大小の構成落款も趣きあり
一つの塊を魅力的に表現
景色よく大小うまく調和
3行目のまとめが巧み
悠々 美章 萩芳 景燁
たっぷりした文字暖かい
無駄を除いた潔い姿に好感
丁寧な慎重さが心地よい
素直な優しさが響いてくる
勢い余る右を左側で調和

雄一 玉生 七香 彩香 陽子
文字中の白を巧みに生かす
穂先を操り多彩な線を生む
3行目の動きが抜群
刻み込む力強さが伝わる
熟練した表現だが単調かも
喜代美 和加江 美梢 春蘭
舞い落ちる雪を繊細に表現
骨力のある線で力強い
筆の開閉と懐ろの広さ堂々
細やかな変化のある造形
墨溜りを生かし読み易い

選評 田村 鄭雲

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 山口仙草 田村鄭雲

現代詩文書 (蓉花)

坂本 蓉花

「ダイナマイト琉球」



坂本蓉花書

137×35cm

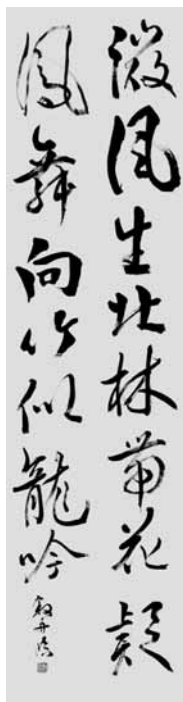
◆海の折りの響きを渴筆の動きと線の呼吸で見事に表現。落款も面白く書かれているが、印の大きさが気になる。1行だが躍動感のある作品である。

(鄭雲評)

臨書 (千葉)

竹浪 叙舟

「李嶠詩断簡」



竹浪叙舟臨

136×35cm

◆線の切れ味が良く爽やかな臨書。太細、大小、軽重の変化を着実に促え、完成度が高い。原本の良さを適確に再現した力量は不断の学書の賜物。

(萬城評)

臨書 (玄穹)

千葉 紅雪

「李嶠詩断簡」



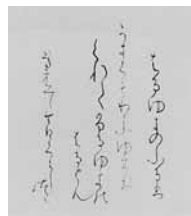
千葉紅雪臨

135×35cm

◆大胆な筆致で線が躍動し、潤渇の変化も巧みで見所が多い。気魄に溢れる作品で、臨書の域を越えて創意に溢れ、魅力的。力量の高さが窺える。

(萬城評)

部分拡大



茂木絢水臨

135×35cm

◆数ある古筆の中で、恐らく本人の持つ資質に近い古筆でしょう。さらっと、自然に把握して掌中に行っている。淀みなく気高く清らかな作品。

(洋子評)

小品の部

臨書

(宗苑)

茂木 絢水 「升色紙」

〈小品の部〉

創作の部(40点)

漢字 18点

かな 1点

現代 1点

篆刻 1点

前衛 1点

臨書の部(39点)

漢字 35点

かな 4点

総出品点数
79点

〈特選候補者〉

〈創作の部〉

〔漢字〕

秀恵 阿部 雅悠

麗澤 長谷川 翠

〔かな〕

伊呂 齋藤 杏邑

〔現代詩〕

植松 梅田 紅雨

青湖 北嶋 青湖

伊呂 齋藤 久子

玄穹 千葉 陽子

大雲 奥村 美楓

〔前衛〕

白珠 小島 遼平

秀水 坂井 初江

華芳 庄司 紫千

〔漢字の部〕

〔漢字〕

泰香 小木 曾泰香

大雲 江本 興舟

八街 三浦 小樹

澄春 土屋 恵仙

谷秀 穴戸 春秀

千葉 石川 晴洞

八街 相楽 天翔

八街 十河 春景

紅瑤 原島 春汀

現代詩文書 (大拙) 畠中成山 「秋元康の詞」



畠中成山書

60×180cm

◆紙面を切り裂く力強い線質が魅力。後半の小書きの空間処理と筆致が作品を引き締めている。冒頭の詩人名はリズムを欠く。再考を。(鄭雲評)

現代詩文書 (四枝)

大友四峰 「白鷺城(直井彩の詩)」



大友四峰書

60×140cm

◆墨溜りと長鋒による太細の変化により立体的な明るい表現となっている。各行のリズムの強弱が楽しい。怪しい文字があるので注意されたい。(鄭雲評)

◆超濃墨による重厚な線で作で渴筆がきいて躍動感に満ちた快作です。軽快な筆の動きが見る者を圧倒する。(仙草評)

前衛書 (蓮紅) 佐藤紅茜 「あゆむ」



佐藤紅茜書

60×180cm

前衛書 (紅瑤)

川田弘子 「道」



◆豪快な鋭い直線構成の、堂々とした作品。余白処理も見事で魅力的な作となっている。落款の位置、大きさに配慮されたい。(仙草評)

川田弘子書

180×60cm

〈大作の部〉

創作の部(30点)	漢字—3点
かな—2点	現代—9点
前衛—16点	臨書の部(12点)
漢字—11点	かな—1点
総出品点数	42点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

もく青木 藤津

AI 清水由紀子

かな—

玉松田中 耶衣

〔現代詩〕

四枝伊藤 四夏

花壁高橋 奎媛

〔前衛〕

松風 西條 松雲

白珠 伊藤 二翔

玉州 遠藤 和香

紅瑤 廣田 紫

玄象 中田 千代子

蓮紅大友 紅蓉

〔臨書の部〕

〔漢字〕

千葉 佐藤 桂香

遊山 紺野 遊山

素朴 坂本 素朴

大雲 丹寶 恵美

紅瑤 相澤 敦子

若葉 工藤 山房

上泉 早部 朗

漢字研究部
(李嶠詩断簡)

選評 児玉 頼 光

今月のホープ作品



池 田 幸 子

漢字研究部 特選 池 田 幸 子

骨格がしっかりとした豊かな線質で表現され、太細、遅速を加味した、空間をうまくとらえた流暢で堂々たる作品となっています。原帖の特長をうまく表現しようとする気持ちに伝わり、心が温まります。御練筆を願っています。

◎漢字研究部総評

李嶠詩の特長は、①線の太細、②遅速、③

字形の面白さ、④起筆の厳しさなどが考えられます。この視点で審査しました。特長をよくとらえた作品が多く見受けられ、すがすがしい気持ちで、審査しました。日頃の練習の成果が作品に表現されていました。残念なことは①紙面に応じた字の大きさに配慮する。字形や線質はよいのに。②筆先の運動(パネ)をもっと厳しく躍動させてほしい。時間を確保して全臨に是非挑戦してもらいたいです。



青 翔 和 人 葵 子 博 理 恵 子



真 由 裕 洗 清 子 谷 粹 篁 子 貴 子



黄 翠 金 子 良 彩 桂 悠 聖 祥



紅 紫 直 浩 実 子 清 玉 美 麗 春 麗

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字26点・かな12点)

選評 小竹石雲・平川峰子

漢字秀逸作



竹浪 叙舟



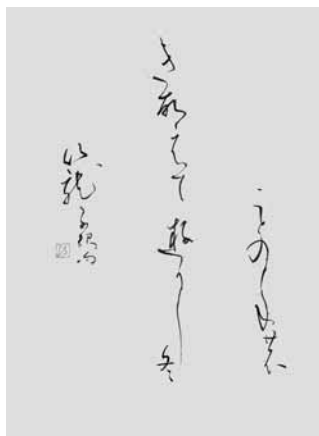
小川 白柳



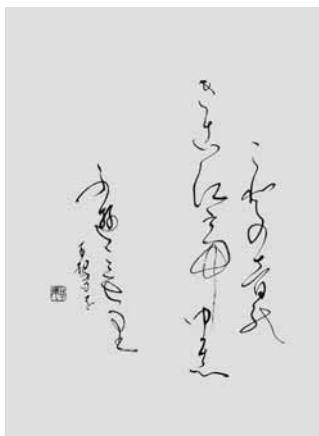
西川 藤象



北嶋 菁湖



佐々木浩子



石崎 甘雨

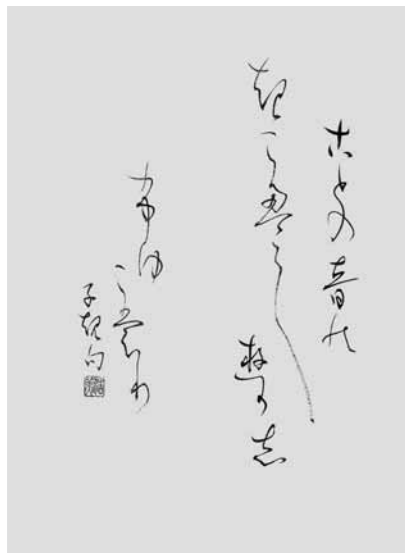
〈次点・50音順〉

江本興舟



沈潜された線に、気迫漲る躍動感が紙面に心地よく定着している。字形の確かさと、骨気ある運筆とが相俟って格調の高い作品に仕上がる。(石雲評)

かな秀逸作



神谷雲卿

散らしの構成に長い渴筆部を取り入れた強い線条と柔らかい細い緻密な字粒のバランスが心地よく魅力ある作品に仕上がっている。(峰子評)

院報

令和7年11月23日、上野精養軒にて開催された第3回通常理事会についての報告をします。

審議事項

1) 第79回書道芸術院展、第77回全国学生書道展について

会期は、令和8年2月5日(木)～2月11日(水・祝)まで東京都美術館会場で開催する。

① 研究会、表彰式(学生展・院展)について

全国学生書道展では、学生展の会場で2月7日に大賞受賞者による席上揮毫、2月8日にワークショップを開催する。書道芸術院展は、2月8日10時から大賞準大賞受賞者による席上揮毫会、同日11時から前衛書展出品作家の作品研究会、14時から各部一般無鑑査の作品解説会を会場で行う。2月11日(水・祝)には10時から役員による作品解説会を第1室で開催する。2月7日(土)には浅草橋ヒューリックホールで13時より全国学生書道展の表彰式、15時30分から書道芸術院展の表彰式を開催することが決定された。

② 第77回全国学生書道展について
令和7年10月30日から11月3日まで審査が行われた。団体表彰、半

紙の部、半切1/2の部の入賞者が決定された。半紙の部では143団体、出品点数9,824点(4,884人)、半切1/2の部では97団体、出品点数2,563点(1,809人)の応募があった。半紙の部は100点ほど増加、半切1/2の部は50点ほど減少であった。

③ 人事について

6月の理事会以降の審査会員昇格者は伊藤明秋(漢字部)、宮崎春泉(漢字部)、芳賀真桜(現代詩文書部)、復帰者2名、移籍者1名、退会者41名、ご逝去者9名の報告があり承認された。

2) 令和8年度単位認定講習会について
山陰支局(支局長：名越蒼竹理事)の主管により、2日間での講習会とする。

日時 令和8年8月22日(土)～23日(日)

場所 エースバック倉吉未来中心

鳥取県倉吉市駄経寺町212-5

講師 (漢字) 川島舟錦

(かな) 下谷洋子

(現代詩文書) 小竹石雲

(篆刻刻字) 後藤大峰

(前衛書) 千葉蒼玄

(原拓書道史) 種谷萬城

(書道芸術院の書) 下谷洋子

(一般教養) 地元講師(交渉中)

報告事項

1) 第79回書道芸術院展評論家の眼について

第79回書道芸術院展「評論家の眼」

は、公益財団法人書壇院 顧問 柳澤朱重先生にお願いする。

2) 秋季展について

10月7日～12日までセントラルミュージアム銀座を会場に財団役員、審査会員及び秋季菊花賞、秋季俊英賞の計143点の作品を展示した。11日には表彰式、研究会が開催され、選考委員の先生方の講評を頂き有意義な時間となった。また、出品者の懇親会も実施し盛況であった。来場者954人。また書道芸術院前衛書展は、アートサロン毎日で開催され、22名の新進気鋭の作家が意欲作を発表した。またトークショーは、奎星会 会長中原志軒先生をお迎えして開催した。来場者人431名。

次年度の秋季展は、セントラルミュージアム銀座会場10月8日(木)～11日(日)、アートサロン毎日会場(現代詩文書展)10月8日(木)～10日(土)とすることを説明した。

3) 書道芸術院単位認定講習会実施報告

① 南関東総局主管

(総局長 種谷萬城理事)

日時：令和7年8月23日(土)～24日(日)

場所：ホテルポートプラザちば

受講者数123名

◎講師・講義内容

書道芸術院史：下谷洋子

「書道芸術院の歴史と最近の院の活動」

原拓書道史：種谷萬城

「通史」

篆刻・刻字：後藤大峰

「長久を彫る」

現代詩文書：小竹石雲

「一逞しさ 豪放さを求めて」

一般教養：千葉市動物公園

鏑木一誠 氏

「千葉市動物公園と動物園の社会的役割と園再生への取り組み」

漢字：名越蒼竹

「行草書における変化と調和」

前衛書：千葉蒼玄

「前衛書を書いてみよう」

かな：下谷洋子

「かなの基礎と古筆の見方」

4) 書道芸術院創立80周年記念事業について

記念事業(案)の概要(表彰式、祝賀会、教則本、海外展ほか)を説明した。

5) 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告

下谷洋子理事長より第77回毎日書道展の鑑別審査等と全国書美術振興会の会員について報告した。小竹常務理事より、全国書美術振興会のユネスコ登録、今後の事業(特別揮毫会、高校出前授業、日本の書展)について報告した。

その他

1) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

2) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

3) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

4) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

5) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

6) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

7) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

8) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

9) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

10) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

11) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

12) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

13) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

14) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

15) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

16) 事務局より書道芸術院の令和8年度の事業予定について説明した。

令和 8 年 （公財）書道芸術院 年間行事予定表

月	日	芸術院行事	日	展覧会関係	
		内 容		内 容	場 所
1 月	5	仕事始め	4～9	現代の書新春展	セイコーハウス銀座ホール (旧和光ホール)
	19	第79回展審査会員・審査会員候補（書類搬入）			
	27	第79回展審査会員・審査会員候補（作品搬入）	4～9	現代の書新春展100人展	セントラルミュージアム銀座
	28	大賞選考			
	29	春華賞選考			
2 月	4	第79回書道芸術院展陳列、評論家の眼、記者会見	26～3/2	第57回現代女流書100人展	日本橋高島屋
	5～11	第79回書道芸術院展			
	5～11	第77回全国学生書道展			
3 月	21	通常理事会			
4 月					
5 月	10	監査・通常理事会（院事務所）	11～13	第77回毎日書道展 公募会友受付搬入	毎日ホール
			20～24	第77回毎日書道展鑑別審査	国立新美術館
6 月	6	定時評議員会（共和会館）			
	18	第77回毎日書道展対策委員会（院事務所）			
	21	通常理事会			
	21	第80回書道芸術院展運営委員会、実行委員会（院事務所）	27	第77回毎日書道展会員賞選考	国立新美術館
			28	第77回毎日書道展大臣賞選考	国立新美術館
7 月	1	学生展要項発送			
			7/8～8/2	第77回毎日書道展	国立新美術館/東京都美術館
	19	第77回毎日書道展書道芸術院祝賀会	19	第77回毎日書道展表彰式	ザ・プリンスパークタワー東京
	31	秋季展締切			
8 月	6	秋季展下見会			
	12～14	夏季休暇			
	20	秋季展審査			
	22～23	単位認定講習会（鳥取県）			
9 月					
10月	7	秋季展陳列			
	8～11	秋季展			
	10	秋季展表彰式、研究会			
	11	秋季展撤回			
	19	第78回全国学生書道展作品搬入			
	10/28～11/3	第78回全国学生書道展審査			
11月	17	第80回書道芸術院展(一般/無鑑査)締切			
	23	創立記念日			
		通常理事会			
		講演会、懇親会			
12月	5～6	第80回書道芸術院展審査			
	25	仕事納め			

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。

孔子廟堂碑 (楷書)

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

△90%縮小▽



達學之為貴。而弘道之由人也。國子祭酒

(原寸にするには111%拡大のこと)

蘇慈墓誌銘 (楷書)

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

△原寸大▽



儀同大將軍。封瀛州文／安縣開國公。邑一千五百戶。開幕府而署賢。垂

皇甫誕碑（楷書）

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書

△原寸大▽



故得馳令問於碣／館。播芳猷於平臺。／以古方今。彼此一／也。尋除尚書比部

〈ご注意〉 臨書作品は46～53ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

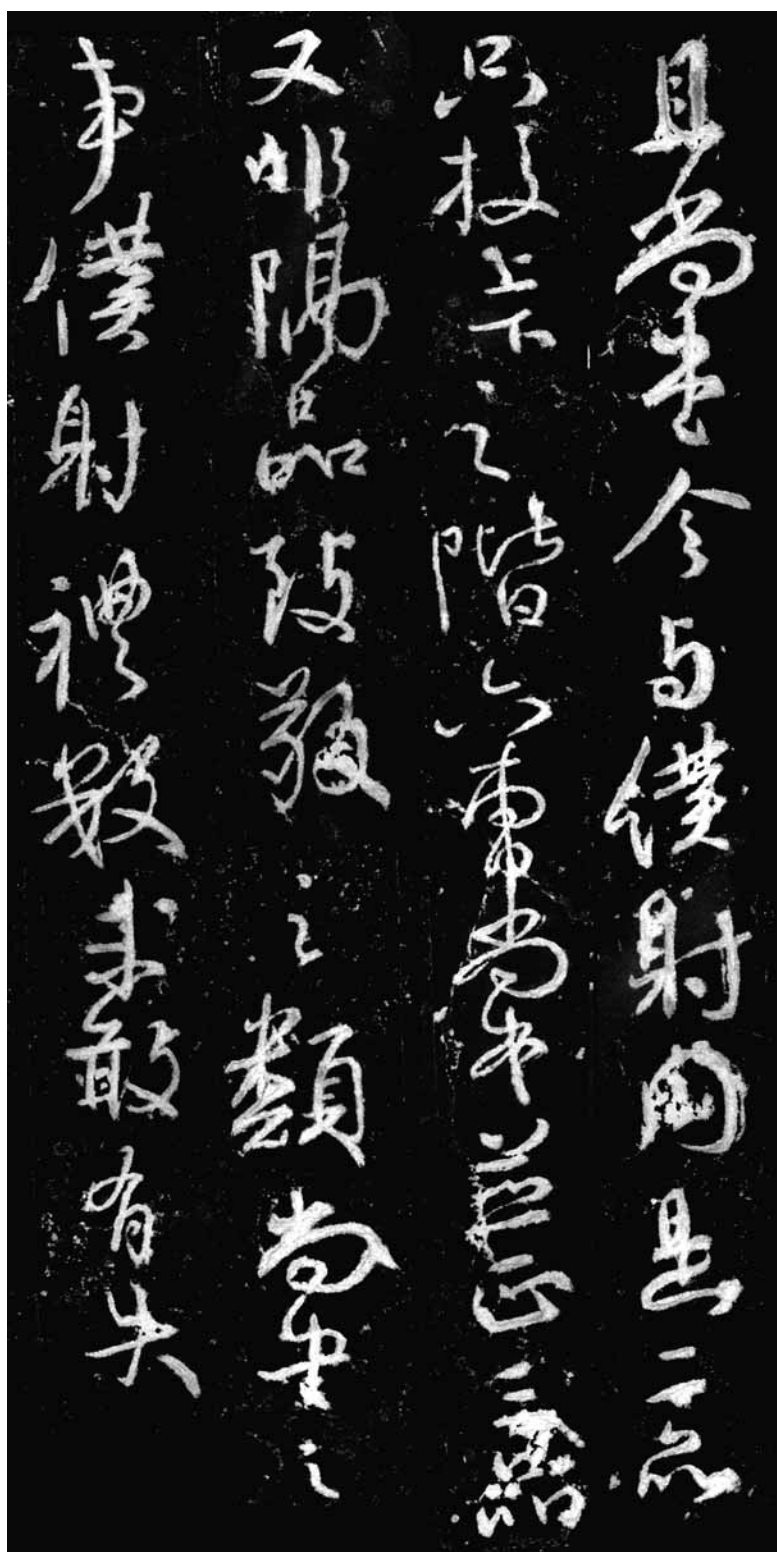
争座位文稿 (行書)

漢字条幅部

第三種

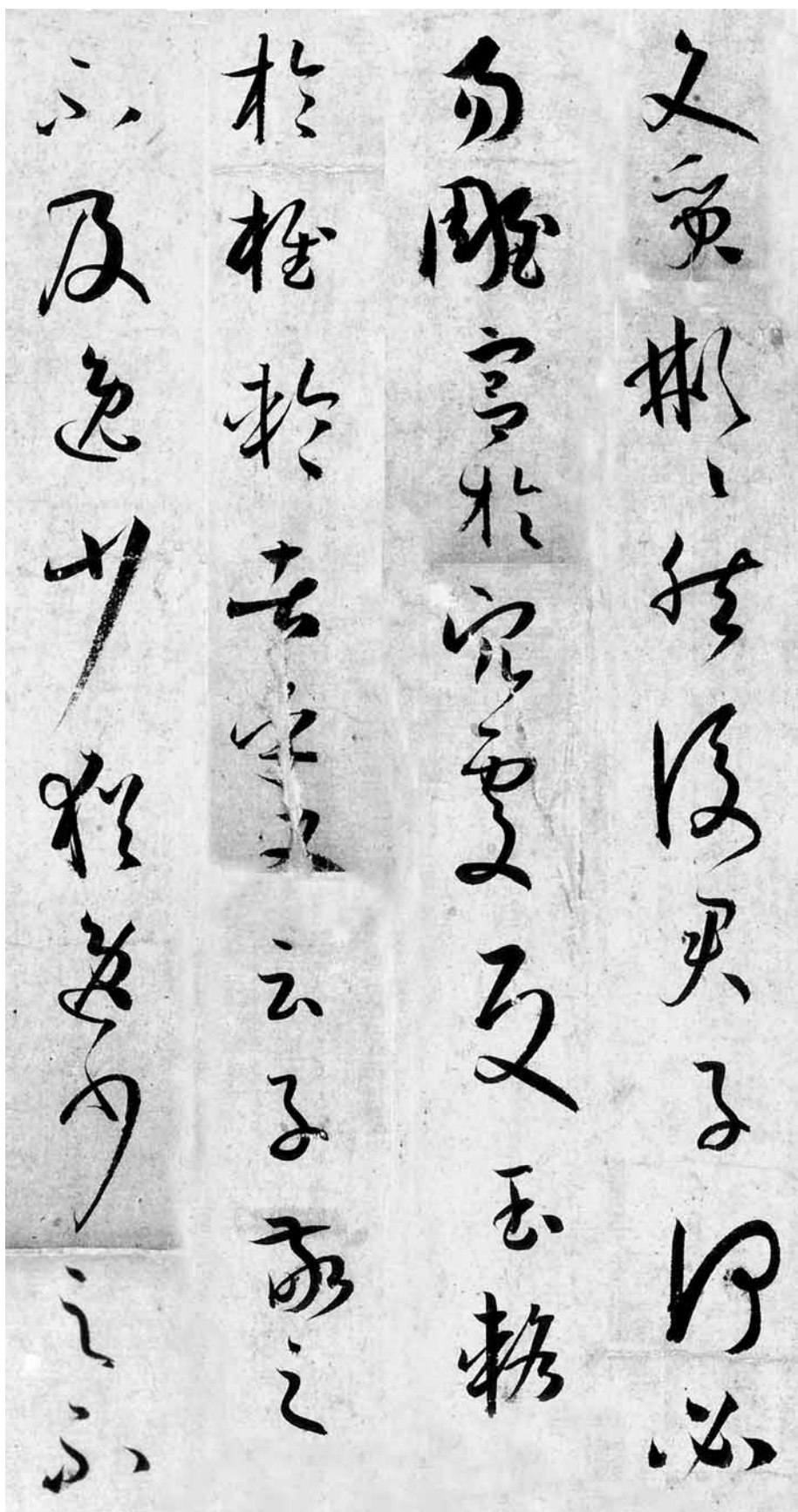
半切に写真掲載の中から20文字を臨書

△原寸大▽



且尙書令與僕射同是二品。／只校上下之階。六曹尙書並正三品。／又非隔品致敬之類。尙書之／事僕射。禮數未敢有失。

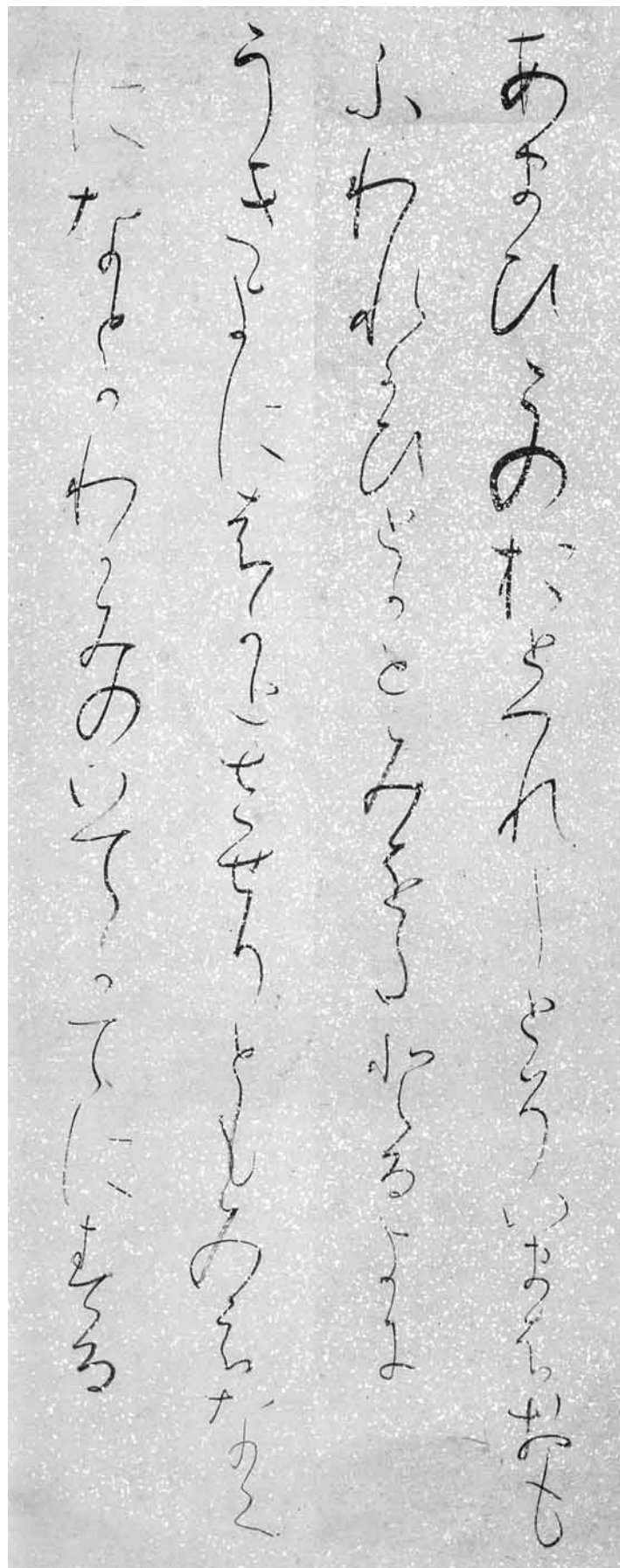
(行立ては変更しています)



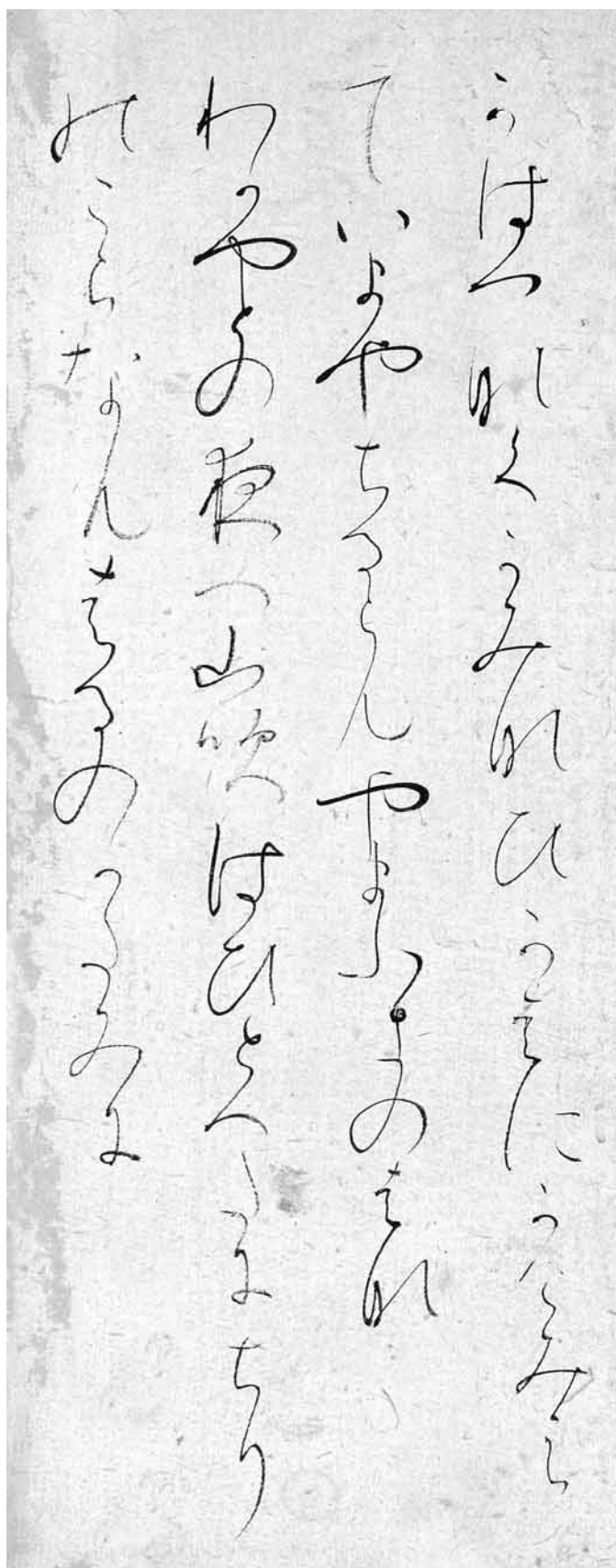
文質彬彬。然後君子。何必／易雕宮於穴處。反玉輅／於椎輪者乎。又云。子敬之／不及逸少。猶逸少之不及

（行立ては変更しています）

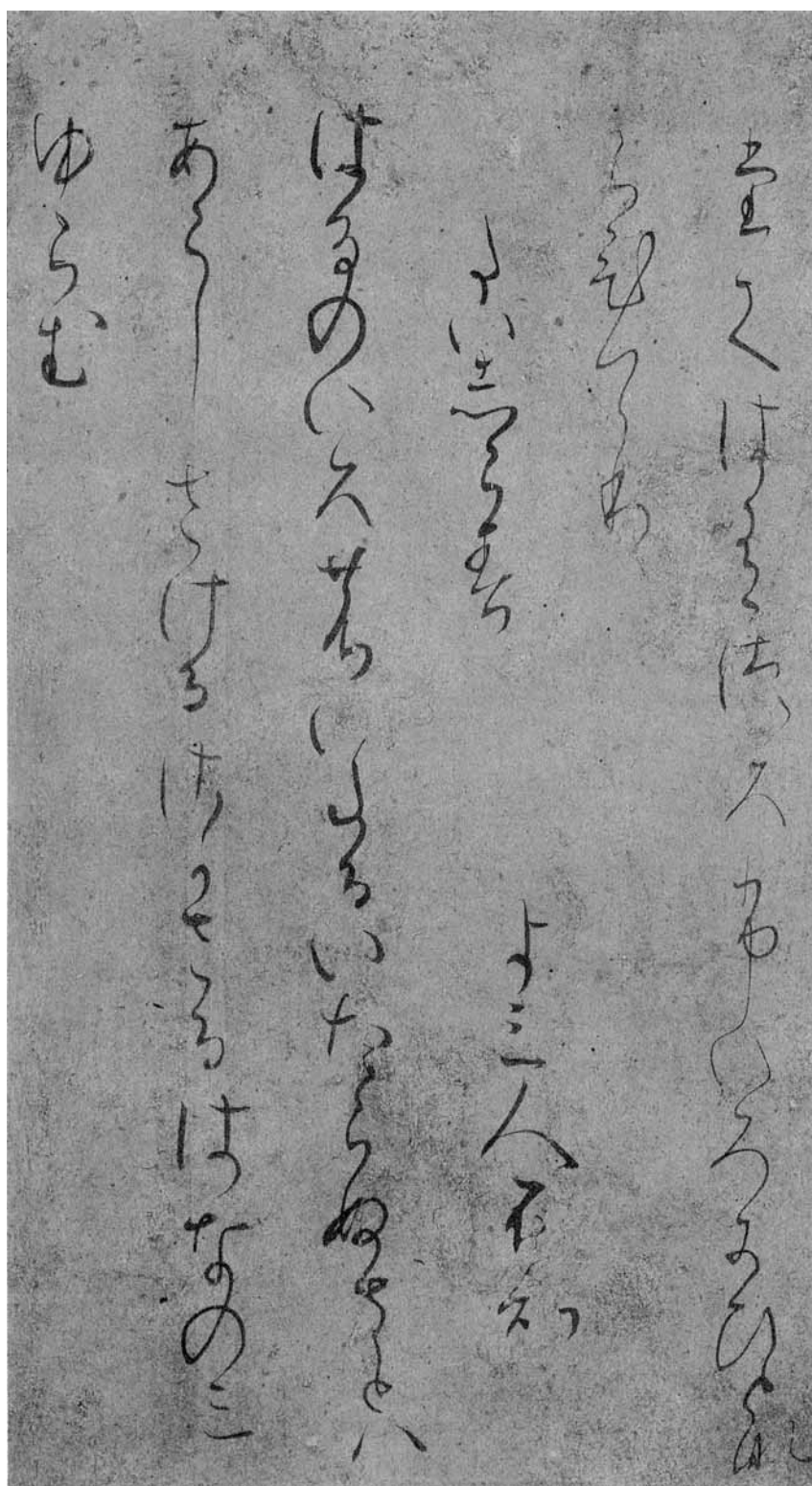
(行立では変更しています)



あまびこのおとづれとぞいまはおも
ふわれかひとかとみをたどるよに
うきよにはかどさせりとみえなく
になどかわがみのいでがてにする



可
かはづなくかみなびかはにかけみえ
可久可那可者可介
ていまやちるらむやまぶきのはな
无无支者那
わがやどのやへ山吹はひとへだにちり
可可夜多尔
能
のこらなむはるのかたみに



<原寸大>

堂旦有徒布
たてばうつろふいろにひと
飛介利
らひけり
多志春
だいしらず
よみ人不知

農多
はるのいろのいたるいたらぬさとは
佐可
あらしさけるさかざるはなのみ
三
ゆらむ
（1首目の前半部分は散逸しています）

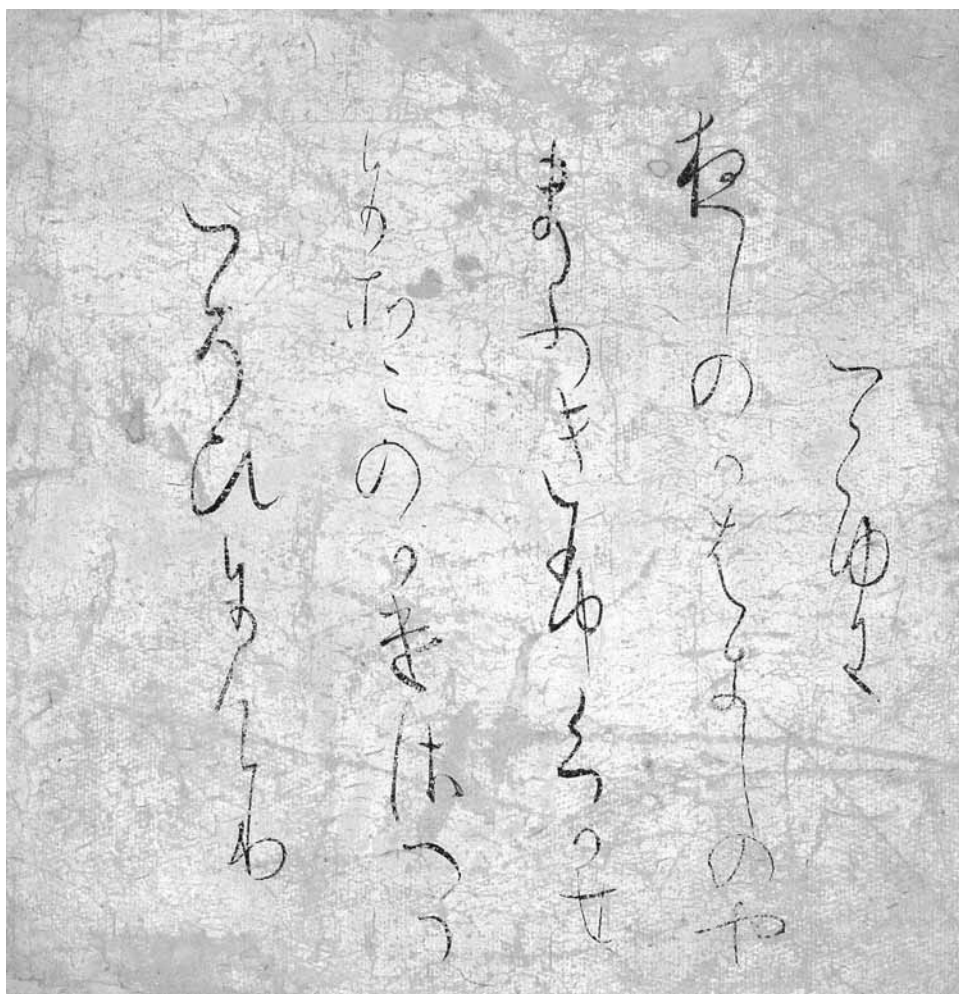
寸松庵色紙

かな部

第三種

半紙に枠をとり写真掲載の和歌を書く

△原寸大▽



・料紙可

・たて13.0センチ×よこ12.6センチ原寸大の枠を半紙にとり、その中に書くこと。

・落款は枠外に書く。○○臨

印のみも可(枠外に押印)

・料紙を裁断して貼付してもよい。

つらゆき^支

夜の^{可者支}がはきしのや

まぶき^{布久可}ふくかぜ

に^{尔所}そこ^{可遣佐}のかげさへう

つろひ^{尔介利}にけり

ご注意!!

名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

・創作は○○書と書く。

(かな部・かな条幅部は印のみも可)

・臨書は○○臨と書く。

(かな部・かな条幅部は印のみも可)

書展

第6回もくせい書道会 展を拝見して

熊谷 翔

会期 令和7年11月7日(金)
9日(日)

会場 船橋市民ギャラリー3階

半田藤扇先生主宰の第6回もくせい書道会展が船橋市民ギャラリーにおいて開催され拝見させていただきました。コロナ禍の影響を受け6年ぶりの開催とのこと。船橋市長も来場されたと同じ、多くの方々に待望されていた開催であったことが感じられました。

作品は、各種展覧会での受賞作をはじめ、臨書や小品など幅広い表現の作品が陳列されました。いずれも真摯な学書の成果を存分に発揮している作品ばかりでした。加えて、学生の童謡と絵のコラボレーション作品が会場に花を添えておりました。

また、会期中は採拓体験のコーナーも設けられ、子どもたちが楽しそうに夢中で取り組む姿が印象



会場風景



整然と並んだ作品群

的でした。

今回展で特筆すべきは、「小さな個展」と題された半田先生の個展が併催されたことかと思えます。秋元康の詩を書いた大作「同じ夢」、四季に因んだ漢字4作品を中心に全35点の作品が並びました。躍動感あふれる強い筆致の漢字作品、詩情を感じる現代詩文書作品、前衛的な構成の小品など多様な表情の作品に出会うことができました。また、木簡・書譜・何紹基等の臨書も展示され、先生の表現の基となる部分を垣間見ることができました。数年前、感銘を受けた「杜甫の詩」に再会できたことも私にとって非常に嬉しいことでありました。

3年後の7回展が今から待ち遠しい気持ちでおります。

もくせい書道会の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げます。

第79回書道芸術院展

併催＝第77回全国学生書道展

- 会 期：令和8年2月5日(木)～11日(水・祝)
9：30～17：30 (入場は30分前まで) ※11日(水・祝)は14：00閉室
- 会 場：東京都美術館 (上野公園内)
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36 TEL 03-3823-6921(代表)
- 主 催：公益財団法人 書道芸術院
- 後 援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会

《表 彰 式》令和8年2月7日(土) 15：30～(受付15：00～)
ヒューリックホール (浅草橋)

《出品者の集い》令和8年2月7日(土) 17：30～
ヒューリックホール (浅草橋)

《作品解説会》東京都美術館展示会場
・令和8年2月8日(日) 11：00～ 秋季展前衛書展出品作家研究会
14：00～ 各部作品研究会
・令和8年2月11日(水・祝) 10：00～ 作品研究会

《席上揮毫会》東京都美術館展示会場
・令和8年2月8日(日) 10：00～

★おわびと訂正

12月号46ページに今回の書道芸術院展の内容を掲載しましたが、表彰式と出品者の集いの日付が間違っていました。おわびして正しい内容を再掲します。

第77回 全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

- 会 期**：令和8年2月5日(木)～11日(水・祝)
9：30～17：30（入場は30分前まで） ※11日(水・祝)は14：00閉室
- 会 場**：東京都美術館（上野公園内）学生展展示2階 第2展示室
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)
- 主 催**：公益財団法人 書道芸術院
- 後 援**：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会・毎日小学生新聞
- 《席上揮毫会》令和8年2月7日(土) 10：00～
学生展展示会場
- 《表 彰 式》令和8年2月7日(土) 13：00～（受付12：00～）
ヒューリックホール（浅草橋）
- 《ワークショップ》令和8年2月8日(日) 13：00～
学生展展示会場

※第79回書道芸術院展"出品者の集い"(懇親会)について

書道芸術院展の開催が近づいてまいりました。今回は"出品者の集い"となり、表彰式と同じ会場で行うため人数を制限いたします。表彰式に出席された方が参加できます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、表彰式では春華賞、大賞、準大賞、白雪紅梅賞、俊英賞、院賞、毎日新聞社賞、準特選の皆様には賞状を授与します。また、特選、秀作、佳作、褒状については、代表の方に賞状を授与いたします。代表授与のご依頼は既に行っておりますので、ご了解願います。

(789号～791号)	(786号～788号)	(783号～785号)	(780号～782号)	(777号～779号)	号	〈予告〉令和8年度 臨書課題
1月号～3月号	10月号～12月号	7月号～9月号	4月号～6月号	1月号～3月号		
書譜	孔子廟堂碑	礼器碑	蘭亭序	蘇慈墓誌銘	古典鑑賞	
十五番歌合	藍紙本万葉集	寛平御時后宮歌合	粘葉本和漢朗詠集	曼殊院本古今集	古筆鑑賞	

『認定証』発行

「書道芸術」の各部門別に、師範の資格を取得されている方に対して『認定証』を発行しております。

次の要領で、申請してください。

申請料 1部門 1万円

申請書式

はがき大の用紙に次のように記載し、申請料とともに現金書留でお送りください。

認定証申請書

申請者名（姓号）

1 郵便番号

2 住所・電話番号

3 支部、支部名

4 申請部門（漢・かな・漢字
条幅・かな条幅・ペン字）

5 師範資格取得年月日

認定証発行の年月日は師範資格取得年月日となります。

受付日より1ヵ月程度で認定証をお送りいたします。

書道芸術誌及び書道芸術学生版購読について

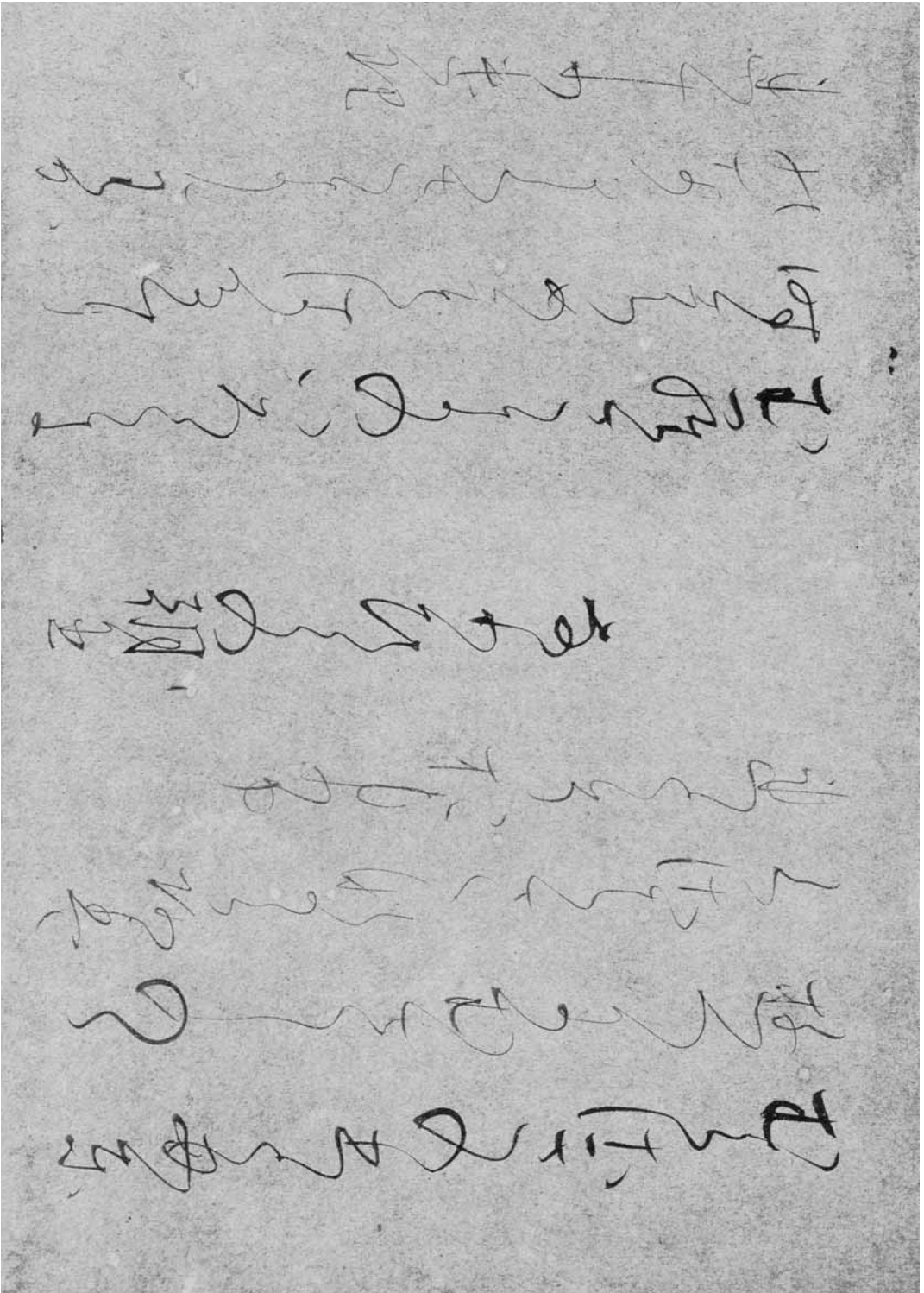
本誌の購読中止を希望される場合には必ず、書道芸術院事務所までご連絡ください。

連絡がないと本誌は3ヶ月間は、そのまま送られていくことになります。誌代が未納入の場合でも扱いは同じです。必ず中止の連絡をお願い致します。

また、中止によって誌代に残金が生じた場合は返金を致します。この場合、返金額が3000円に満たない時は同額分の切手をお送りしております。あわせてご了承ください。

よろしくお願いいたします。

☆より「古筆鑑賞」の原寸図版

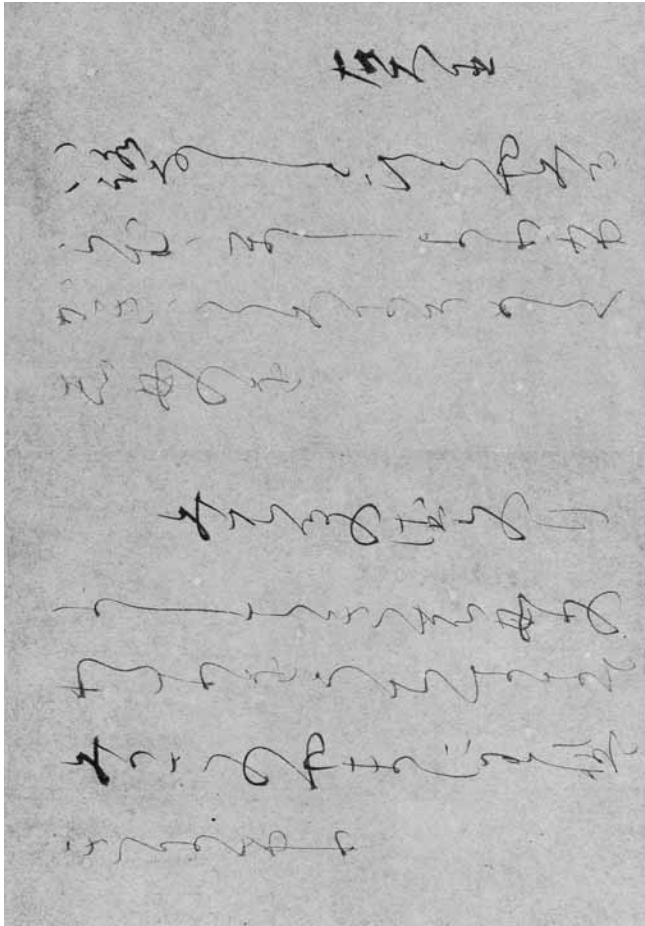


〈よみ〉むらさきの^佐紙^文^東のひとと^婦ゆへに^父むさしの^女くさはさ^弟ながら^耳あは^はる^はに^はなる^はくさきも^はわ^かれざり^{なり}けり
 むらさきのいこき^時はめもはるに^{なる}くさきも^{なる}わ^かれざり^{なり}けり

古筆鑑賞

263

曼殊院本古今集 (伝 藤原行成筆) ②



(掲載図版・70%に縮小)

いろ^路な^茶しとひとやみる
 らむ^かかし^利より^布ふ
 かき^志ころ^母にそめて^三
 しもの^不を^佐
 み^みふ^のさ^佐だ^堂の^り
 かし^可は^多ぎ^利の^文り
 わたり^可を^利うち^王す^ぎて
 みか^不さ^利の^はや^まに^われ
 き^にけ^り

〈よみ〉

右大臣

古典鑑賞

489

蘇慈墓誌銘 (隋 603年) ②



(掲載図版・70%に縮小)

公諱慈。字孝慈。其先扶
 風人也。九曲靈長。河流
 出積石之下。十城側厚。
 玉英產崑崙之上。故地
 稱陸海之奧。山謂近天

特別昇段級試験

一、しめきり日 4月15日(水)

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、二種
かな 一種、二種、三種
漢字条幅 一種、二種、三種
かな条幅 一種、二種
ペン字 一種、二種
漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

二、応募資格

・一人で行くつの部にも応募できる。

・第一種 現段級が特級、10級、新規

・第二種 現段級が初段、3級

(4、10級の方は受験できない)

・第三種 現段級が準師範、秀級

(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は50、53ページの写真掲載の中から(指定文字数)を臨書。

漢字部

半紙、たて長に使用

第一種 (1枚)

楷 臨書 孔子廟堂碑 (孔子廟堂碑より4文字を臨書)

第二種 (計2枚)

楷 臨書 蘇慈墓誌銘 (蘇慈墓誌銘より4文字を臨書)
行 創作 養怡之福 (曹操)(養怡の福)

かな部

半紙、たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け可。
・かな部臨書・創作はともに落款は印のみ可。
・かな・漢字の変更自由。

第一種 (1枚)

臨書 高野切第三種

第二種 (臨・創 計2枚)

臨書 粘葉本和漢朗詠集

創作

もうこしも夢に見しかばかりきおもはぬ中ぞはるけかりける (兼基法師)

第三種 (臨・創 計3枚)

臨書 関戸本古今和歌集

臨書

寸松庵色紙(半紙1枚に1首) たて13.0cm×よこ12.6cmの枠(原寸大)を半紙にとり、その中に書くこと。

創作

落款は枠外に書くこと。
印のみ可。(枠外に押印)
吹く風をなこそ思ふほど道もせに散る山桜かな (源義家)

漢字条幅部

小画仙紙半切、たて長に使用

第一種 (1枚)

楷書または行書 創作 時寒半説雲 (劉克莊)(時は寒にして半ば雲を説く)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 臨書 皇甫誕碑 (皇甫誕碑より14文字を臨書)
行 創作 少時喚愁作底物、老境方知世有愁 (陸游)(少時喚愁いは底物と作すと喚びしも老境に方めて知りぬ世に愁い有るを)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

楷 創作 忘盡世間愁故在、和身忘却始應休 (陸游)(世間を忘れずとも愁いは故のこころ在り身と和に忘却して始めて心休むべし)

行 臨書

争座位文稿 (争座位文稿より20文字を臨書)

草 臨書 書譜 (書譜より14文字を臨書)

かな条幅部

小画仙紙半切、たて長に使用

かな条幅部

かな条幅部創作の落款は印のみ可、かな・漢字の変更自由。

第一種 (1枚)

創作 おもひ出て物なつかしき柳かな (稚木才麿)

第二種 (創 計2枚)

創作 桜より桃にしたしき小家哉 (与謝蕪村)

創作

春の夜は軒端の梅をもる月の光も薫る心地こそすれ (藤原俊成)

ペン字部

はがきの大きさは白紙、たて長に使用、黒インク使用

第一種 楷書

楷・行 (計2枚)

第二種 楷・行

(計2枚)

日中書法交流史は大和時代の五世紀から始まる。百済を経由し、中国の文物や制度とともに漢字を受け入れたのがその出発点である。 ○○書

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。
・創作は○○書と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)
・臨書は○○臨と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 四、五〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◆昇段級試験用振替口座で納入。

六、審査結果と昇段級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

七、応募手続

1 出品票はバーコード出品券を使用し、4月号(78号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)

一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。

3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

5 受験申込み締切は3月19日(水)申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

書道芸術編集部特別昇段級試験係

(受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。)

応募書類は4月1日以後に整理発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

5

募集する。

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみ可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、締切日必着厳守

2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない

3、月別出品券のコピーは不可

4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く

(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…

段位は漢数字 初、二、三…

で書いてください。

*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	段級位	用紙	書体・内容
字	初段以上	半紙	創作(書体自由)
漢	秀級以下	半紙	創作(楷書)
な	初段以上	半紙	創作
か	秀級以下	半紙	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創作(書体自由)
かな条幅	10級	半切	創作
ペン字	10級	半切	創作

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

・掲載部分以外の箇所は不可。
・かな研究部門は料紙使用可。
料紙貼りつけ可。

●自由部(段、級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

△実用書部門・出品規定▽

○用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ 24×16.5 cm、
B5コピー用紙 26×18.1 cm
も可。

○課題 掲載語句を書く。

○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。

・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査会員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみの出品できる部を設ける。

・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。

・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

1か月の購読部数が

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

令和七年十二月二十五日印刷
令和八年一月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷 洋子
発行人

データ処理 株式会社 リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

電話(03)3862-1195
FAX(03)3862-1195
振替 001501411350058

ホームページ <http://www.lincs.co.jp/shogi/>